

長畝ふるさと通信



【2026年2月号】

■ さあ、令和8年産米の始まりです



農水省は令和8年産米の主食用米生産量を711万トン、前年より37万トン減少としました。コメ相場が依然高止まりしており消費が伸びないことや、それに伴って過去一の流通在庫を抱えてしまっていること、安い外国産米がシェアを伸ばしていることなどが原因とされています。先の総選挙では自民党が圧勝しましたが、「消費減税は夏までに制度設計の中間とりまとめを目指す」と意向を述べるにとどまり、しかも2年限定とのこと…。庶民は物価高に苦しみながら毎日生活しているというのに。食生活の中でも単価の高いコメを買い控えるのは当然のことだとは思いますが、だからこそ主食であるコメの単価を引き下げ安定させることが物価対策の有効手段だとは思いませんか？生産量を引き締めて高価格を維持することは生産者にとっては実にありがたいことではありますが、消費者に支持されなければ本末転倒です。農水省やJAは「農家を守るため」と生産調整を推進しますが、コスト面の負担をフォローしてはくれません。農作物は大量生産することでコストカットが実現します。兼業農家を守るのか、これからの農地を守る専業を守るのか。これまで通りの政策では地域や農地を守ることはできません。「働いて×5」も結構ですが「考えて×10」とボクは言いたい。

今冬、日本海側ではたいそうな大雪でしたが、佐渡は平年並み。2月末には雪はありません。水の確保が心配ではありますが「頑張って×5」美味しいコメを作ります。おかわりは自由です！